

○議長（井上勝彦君）順番4、20番 樽井君。

〔20番（樽井豪男君）登壇〕

○20番（樽井豪男君）それでは、議長のお許しを得ましたので、一般質問を始めさせていただきます。

まず、第一番目、1項目といたしまして、大滝ダムは洪水調節と利水を目的とした多目的ダムであります。今回の9月の台風12号には調節できない状況でもあり、もし洪水調節ができていれば、紀の川の水位はどのくらい下がるのか。また、大災害をもたらした熊野川水系への降雨量が仮に大滝ダムに流入した場合、ダム放流量の推移と橋本市への影響についてお伺いいたします。

続きまして2点目につきましては、人事制度についてであります。私も橋本市職員として三十数年にわたり勤務し、その経験の中で人事に関して感じたことを何点かご質問したいと思います。

まず、1点目ですが、どの年代層も比較的短い期間で人事異動がされている点についてであります。新規採用後の職員については概ね3年をめどとしているのは多くの業務にかかわり、経験を積ませるといった観点から非常に良いことであると考えています。最近の状況を見ていると、業務の中心的中間層、また管理職は比較的短期間での異動が以前より増加しているのではないかと思います。大量退職が多く、現状は理解できますが、職員の意欲や取り組み方を考慮すれば、できる限り最小限に抑えるべきではとありますが、当局のお考えをお聞かせください。

2点目につきまして、将来の人事異動、人事のあり方を考慮した場合、年功序列型に近

い人事制度から早く脱却すべきと考えます。高年齢の職員が非常に多いのは理解いたしますが、残任期間の短い部課長の形態がいつまでも続き、若い職員のやる気も薄れてくると考え、早い時期から若くすぐれた人材を課長職に抜てきすべきと考えます。当局の考えをお聞かせください。

3点目ですが、近年、自治体行政は多種多様にわたり、かつ複雑化してきており、市民の行政に対する要望や諸問題も非常に多くなっているのが実情かと思えます。特に、過去の経緯や課題等の説明が必要な事例も毎年毎年増加し、市民の理解を得ることが難しい状況となっております。説明責任を果たしていくためには、それぞれの部署において専門職、いわゆるプロフェッショナル、優秀な人材を各課に配置する必要があると考えます。プロスタッフとなる人材も長年同じ部署にいることは不可能であります。次に控えるセミプロスタッフも育成する必要があると考えます。それぞれの課において、プロスタッフ及びセミプロスタッフとなる人材を育成していくことが、より迅速にまた正確に業務をこなすことができ、ひいては市民のサービスにつながると考えますが、市当局の考えをお聞かせください。

以上、人事制度の難しさも十分理解できますが、本市の将来を見据えた人事なくして、組織の活性化はないと考えますので、明快なご答弁をお願いいたします。

○議長（井上勝彦君）20番 樽井君の一般質問に対する答弁を求めます。

建設部長。

〔建設部長（松浦広之君）登壇〕

○建設部長（松浦広之君）大滝ダムを管理する国土交通省近畿地方整備局紀の川ダム統合管理事務所へ問い合わせましたところ、「現在、大滝ダムは建設中であるため、洪水調整は行っていませんが、台風12号による洪水時においては、大滝ダム地点実績最大流入量毎秒2,143 tに対し、実績最大放流量は毎秒1,837 tとなっており、結果的に自然調節による洪水調節効果は発揮されました。

しかしながら、大滝ダムが人為的に洪水調節した場合の紀の川の水位低下量については、現時点においては操作規則を検討中であり、シミュレーションは行っていません。

次に、大災害をもたらした熊野川水系への降雨量が、仮に大滝ダムに流入した場合の放流推移と本市への影響については、降雨波形や地形条件等が異なるため、熊野川の降雨が大滝ダムに降った場合のダム効果は一概には言えません。」とのことです。

大滝ダムの完成後は、当面、洪水時の最大放流量を毎秒1,200 tとし、下流の河道整備状況等に応じて、最大毎秒2,500 tまで順次変更し、将来的には戦後の5大洪水にも対応できるようにするとのことです。

台風12号における大滝ダム地点通過水量や、紀の川各水位観測所地点の水位、また、各樋門における水位はデータとして残っております。大滝ダムから各地点までの洪水到達時間を仮に何時間とすれば、それらのデータから毎秒1,200 t放流時における各地点の状況はかなり大胆ではありますが、あえて行おうとすれば推測することはできます。しかし、これはあくまで台風12号と全く同じ降雨状況に限ったことであり、自然界ではほとんどあり得ないことで、特に、大滝ダム下流域の降雨状況によっては全く異なった状況となります。

現時点では、冒頭紹介させていただいた紀の川ダム統合管理事務所への問い合わせのと

おりですので、ご理解をお願いします。

○議長（井上勝彦君）理事。

〔理事（吉田長司君）登壇〕

○理事（吉田長司君）人事制度について3点のご質問をいただいておりますが、相互に関連する内容でございますので、あわせてお答えいたします。

本市では、一般職員については概ね3カ年から5カ年、新規採用職員については3年をめぐりとして異動を行うように努めているところですが、議員ご指摘のとおり、ここ数年、大量の職員が退職しており、その退職者の多くが管理職でございますので、どうしても管理職がらみで異動が多くなっております。

その職務に精通した職員がたくさん退職していること、退職に関連し異動が多くなり、職務に精通した職員、いわゆるその課の生き字引的な職員が育ちにくくなっているという状況が発生していることは否めません。

また、ご指摘のように「高年齢者が序列的に部課長になる現状では、若い職員のモチベーションが保てない」、「役職定年制を導入し、若い職員に責任のある職務についてもらってはどうか」等の内部意見もございます。

現在もこれらの現況を勘案しつつ、自己申告書、職員の適性等に配慮し、異動を行っているところですが、特に今年度、来年度において管理職の大量退職者が予定されていることから、若手管理職の登用を積極的に行い、職務に精通しているという意味での「専門職」の育成を行うことを検討しているところです。

さらに、総合的な判断を要する立場で職務をとり行う「総合職」、長期にわたり専門的に職務を担当する「専門職」という「人事の複線化」についても検討していきたいと思っておりますので、ご理解のほど、よろしく願いいたします。

○議長（井上勝彦君）20番 樽井君、再質問

ありますか。

20番 樽井君。

○20番（樽井豪男君） それでは、最初に大滝ダムに関して何点かご質問したいと思います。

先ほど、大滝ダムが最少で洪水の調整が1,200 tから2,500 tということですが、恐らく戦後最大の伊勢湾台風とか、そういうにらみの中で最大放流量が毎秒2,500 tということで、十分安全やということで、恐らく国土交通省は考えてのダム建設だと思います。この場合、私も何年か勤務しておる中で、最大で恐らく平成3年か5年かちょっと忘れましたが、まだ大滝ダムの建設前に、大迫ダムが最大放流2,000 t、これは利水ダムでありまして、来たやつがすべて出ていくというような状況で、橋本市内では旧御殿橋がけた下10 cmまで来ております。だから、この2,500 tということになれば、恐らく紀の川のハイウォーターよりは何ぼかは下がると思うんですけども、そのために恐らく国土交通省は、自分とこの堤防とかから破損しなければ何も問題ないという考えであると思います。

橋本市といたしましては、やはりこういった中で、内水面が非常に大事に、その場合なってくると考えております。内水面对策について、恐らく国は大滝ダムがこれだけ事業が遅れて、下流にもかなり迷惑をかけておる中で、こういった排水ポンプ施設とかは国のほうでいろんな補助金を使ってもらい、できるだけ対応してもらおうようなことに対して、また河川の河床を下げるという方法もあると思うんですけども、そういったことにつきまして、国のほうにどれだけの要望を行っているか、お聞きしたいと思います。

○議長（井上勝彦君） 建設部長。

○建設部長（松浦広之君） 議員ご指摘のとおり1,200 tあるいは2,500 tというのは、あくまで紀の川としての安全性という視点でござ

います。それから、当面1,200 tでいくというのは、大滝ダム下流の河道の整備がまだ未完成でございますので、すべての河道の整備が完了した段階で2,500 t流しても大丈夫だということから、当面は1,200 tでいくところでございます。

いずれにしましても、紀の川の安全性はそれで保たれるんですけども、いわゆる紀の川へ放流している県河川でありますとか、本市が管理します普通河川あるいは一般的な水路、これらの排水については、それぞれの県あるいは市の事業として対応していかざるを得ないという状況でございます。

結果的に申しますと、先日来の台風12号等の雨によりまして、紀の川からの堤防オーバーフローというのはもちろんなかったわけなんですけども、現実的に大谷川等においては、あるいは雨天樋川等においても樋門をぎりぎり閉める直前まで行かざるを得ん、そのために逆流してもろもろの被害、あと一步、あるいは現に被害をこうむられた家屋もあった状況でございます。

というところで、議員ご指摘のように、大滝ダムの完成が遅れたことも含めて、国のほうへそういったものに対する補助を検討してはどうかというところでございますが、これは市といたしまして、そうなれば財源的にも非常に有利でございますので、お願いをしていきたいなというふうには思っておりますが、もろもろいわゆる縦割りというんでしょうか、横割りというんでしょうか、そういった限界もございますので、ただ、住民の方の要望もできるだけ受けた中で、そういった取り組みをしていくためには、国への要望等というのは引き続きやっていきたいなというふう考えております。

○議長（井上勝彦君） 20番 樽井君。

○20番（樽井豪男君） 恐らく、この2,500 tと

いうこの大きな数字は私もはじめての経験でありまして、伊勢湾台風のときは、私の住んでいたところがもうちょっとで2階までつかるといふ事態になっております。恐らく、このダムができて2,500 tで、先ほどまで、どのくらい下がるかというのが非常に言いにくいということがあったと思うんですけども、この2,500 tが紀の川のハイウォーターの高さよりも下と。水位は下がるという考えでよろしいんですか。まず、その一点お伺いします。

○議長（井上勝彦君）建設部長。

○建設部長（松浦広之君）国のほうの定めております当面の紀の川の整備計画の中では、無堤防地域の堤防の築造、それから河床を一部下げるような区域等についても計画されております。これらの整備がすべて完了した時点では、もちろん計画水位よりは以下ということになりますので、ハイウォーターより以下におさまるといふことになります。それはまだまだ相当ボリュームも残っておりますので、2,500 tが紀の川全体において完全に安全になるというふうには、相当の年月を要するといふふうには理解しております。

○議長（井上勝彦君）20番 樽井君。

○20番（樽井豪男君）そういった状況の中で、やはり市としても大滝ダムの放流量と到達時間等を加味して、この橋本市の東家のあたり、また学文路のあたり、だいたい高さがどのくらいまで来るよというデータとか、またシミュレーションとかは持っておられるのか。また、恐らく何t来たら避難の準備をしようというのがあると思うんですけども、その点についてもちょっとお伺いしたいと思えます。

○議長（井上勝彦君）建設部長。

○建設部長（松浦広之君）各樋門におけます避難勧告等の基準水位というのは、樋門ごとに定めております。それから、先ほどの冒頭

の答弁でもさせていただいたんですけども、台風12号の降雨に限って、大滝ダムの通過量が何tのときに、橋本市の例えば水位観測所あるいは大谷川の樋門あたりでどのくらいの水位であったかということはデータとして残っておりますので、その限りにおいては予測はできます。

○議長（井上勝彦君）20番 樽井君。

○20番（樽井豪男君）恐らく1,500 tの水が来れば、ある程度河南地域については、私も現役のときに避難を誘導するような形というのはよく承知しております。その中で、まず今回の12号につきましては、9月の2日の14時ぐらいから1,000 t以上の放流があり、16時からだんだんと増え始めて、1,400 tから1,500 t、また最終的なピークでは9月3日の朝の4時頃が約1,800 tということで、私もその都度現場を見に行きましたけども、やはり到達時間が3時間少しという、3時間半ぐらいでそういったところには到達しております。

その中で、当面の間は1,200 tという放流量というようなことでありますが、この1,200 tの放流量、恐らくこの9月の2日に1,200 tから1,300 tを放流された場合につきまして、紀の川の水位で申しますと、南馬場のグラウンドがつかって使えなくなった状態となっておりますので、その場合は、もし南馬場のグラウンドの高さからいけば、どのくらいから水位が、できるかできないかお答えください。

○議長（井上勝彦君）建設部長。

○建設部長（松浦広之君）南馬場緑地につきましては、東西と申しますか、紀の川に沿う形で上流から下流に主流の延長が長うございまして、その中でグラウンドの高さは約2 m近く上流側が高く、下流側が低い状態になっております。この公園を管理しております教育委員会、あるいは文化スポーツ振興公社等

に確認しましたところ、9月3日の19時にはグラウンドが水没したというふうな報告を受けております。そういったところから、議員おただしのように到達時間が3時間半ないし4時間としますと、1,200tを超えた時期から推測しますと、グラウンドがつかるかつからないかぎりぎりぐらい。あるいはつからなくとも、非常に危険な状態であったということは間違いないことかなというふうに考えております。

以上です。

○議長（井上勝彦君）20番 樽井君。

○20番（樽井豪男君）その中で、今回南馬場が平成27年度の国体のソフトボール会場ということであるんですけども、これ自身、この1,200tが仮に放流していった場合に、まず、安全かどうかということにつきまして、どう思っていますか。

○議長（井上勝彦君）建設部長。

○建設部長（松浦広之君）先ほどの答弁、一部ちょっと修正させていただきます。グラウンドが完全につかったのは19時とたしか申し上げましたけども、21時の間違いでございます。19時現在では、低いところが非常に危険な状態にあったというふうに聞いております。

それから、そういった状況のところでありますので、何をもって安全かということになりますと、いわゆるグラウンドに完全に水が入った状態というのは、これはもう危険も安全もないような状態でございますので、グラウンドに相当近いところまで水位が上がってきますと、やはり法面の崩壊等もろもろ心配がされますので、どの基準でもって安全かというのは非常にお答えしにくい部分でございますが、あくまであのグラウンドは河川敷内の、いわゆる低水護岸の上にありますので、これは今後の雨次第では、雨の降り方いかんによっては、安全であるということとはなかな

か、何ミリをもって安全であるということとはなかなか言いづらい状況かなというふうに感じますし、また、台風12号の雨においても、先ほどから申しましたような状況で推移したというところでございます。

○議長（井上勝彦君）20番 樽井君。

○20番（樽井豪男君）非常に不安定な場所ということの認識に立っておりますが、最近では、紀の川市も会場の約半分が流出し、会場の変更も考えるかもわからないというようなことが情報が入っておりますが、紀の川市はもうちょっと高い位置にあります。それが横のほうをえぐられて流出した。橋本市の場合は、この1,200tクラスでつかるかつからないかわからないというのが、全然、ちょっと背景がまず違うと思っております。この1,200tというのは、本当に私から言えば微々たる量で、川向いてきてますが、こういったことで紀の川市の状況、また今後、橋本市として会場の変更も考えているか等について知っていることをお伺いいたします。

○議長（井上勝彦君）20番 樽井君、質問項目からちょっと外れたような感じしてますけど。

○20番（樽井豪男君）質問項目といたしますと、この下流への影響ということなので、質問項目の中には入っておると私は思っておるんですけども。

○議長（井上勝彦君）それでは、建設部長、下流への影響ということで答弁願います。影響ということで答弁いただいたらいいと思います。

建設部長。

○建設部長（松浦広之君）下流への影響ということで、河川敷内の南馬場グラウンドがどうかという質問でございますが、先ほどもご答弁させていただきましたとおり、あくまでグラウンドは国土交通省に占用いただいて

おります河川敷内でございますので、仮に1,200tの放流であってでも、非常に横が濁流の状態の水が流れておるという状況でございますので、安全であるというふうなことは、なかなか申せない状況かなというふうに考えます。

○議長（井上勝彦君）20番 樽井君。

○20番（樽井豪男君）どうも国体の話になれば、あまり前向いて、ちょっと質問がおかしいということの先ほど議長の指導でございますが、やはりこの下流への影響自身が、今度橋本市に対して非常に困難になる。一つはこういった会場で仮設なりいろんなことをすれば、撤去なりまた据え付け、非常に労力を要するというところで思っております。

この件につきましては、最後に市長のほうで、この南馬場がより安全かどうかというのを、ちょっとお答えをいただきたいと思えます。

○議長（井上勝彦君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）樽井議員の再質問にお答えをいたしたいと思えます。

やはり地方自治体の責任を持っております私としましては、水を治めるということ、一にも水を治める、二にも水を治める。水を治めるということが、これは一番大事なんです。これは市民の安全・安心ということにつながっていくわけですが、私もそうしたことで、9月の18日の日曜日でした。複数で大滝ダムへ直行いたしまして、沿線もいろいろと見させていただきました。時間最大降雨量1,700tとか1,800tとか、確かに私、チェックはしてませんが、想像で受けとめておるんですけども、やはり先週でしたか、納得できない部分もあるわけでございまして、ダムの管理事務所の所長、そして担当課長を呼びまして、市長室でも2時間余りの議論を、

この問題を焦点として議論をしてきたわけがあります。私としては南馬場のことにつきましては、現時点では、あそこでの少女ソフトをやっていくという、国体に向けて、これはそのとおり現在としてはやっていくべきだという考え方を持っておるわけでありまして。

しかし、さらにもう少し、まだまだ今、湛水がこれから来年の5月までやるものですから、それらも含めて詳細な、間違いのない数値というものをつかみながら、今後、取り組んでまいりたいと思っております。

以上でございます。

○議長（井上勝彦君）20番 樽井君。

○20番（樽井豪男君）現時点の話ということで、やはりこういった災害については、非常に未然に防ぐというのも、市の対応がいかに敏速に行うかというのが基本になってくると思います。先ほどのポンプの一件でも、今回の国体の一件でも、やはり早いこと市の体制を示すべきじゃないかと。ぐずぐずしておれば災害は待ってくれませんので、そのあたりを、財政事情もありますが、ぜひ取り組んでいただきたいと思えます。

続きまして2点目につきましては、人事制度につきましては、先ほど理事のほうから割といい答弁をいただきました。やはり、私も長い間経験させていただいて、若い子、子と言ったらおかしいですけども、若い職員がやはりもっとやる気を出すような形で取り組んでいただきたい。やはりどうしても年功序列で、私らの世代が非常に多く部課長にたくさんなっておりますが、これが来年の3月、この中で何人おれへんなるかというのは十分皆さん認識しておりますし、今回、1年で部長されておる方もおりますけども、それは何も文句は言っておりません。やはり部長になれば2年、3年という経験のもとでしていくべきのほうがいいんじゃないか、また、なった本

人も1年というのは非常に苦しいんじゃないかとは思いますが。やはりそういったことで、もっと計画的に人事制度をしていただいて、もっとやる気を起こしていただきたい。

議員が人事についてはとやかく言えません。やはりできるだけ制度として、職員がやる気のできるような人事制度に向かっていただけたら幸いと思っています。

これで、一般質問を終わります。

○議長（井上勝彦君）これをもって20番 樽井君の一般質問は終わりました。

この際、午後1時まで休憩いたします。

（午前11時52分 休憩）